

大阪湾漁場環境速報

2019年11月14日発行
兵庫のり研究所

窒素は一部地点を除き $5 \mu\text{g-at/L}$ 以上となっており、各ノリ漁場周辺での栄養塩は特に問題ない値で推移しています。この海域全域で大型珪藻コシノディスカスが確認されています。湾奥の一部でスケルトネマ等数種の小型珪藻の大量発生が見られましたが、それ以外の海域ではこれら珪藻はほとんど確認されませんでした。

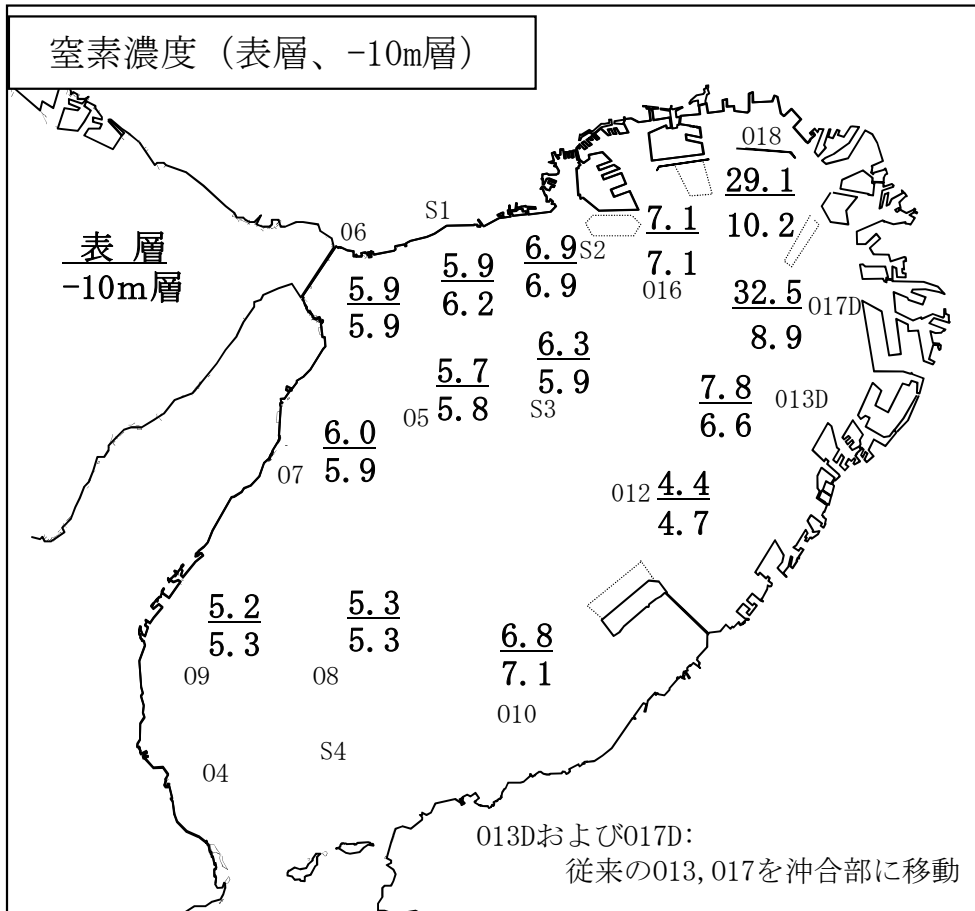
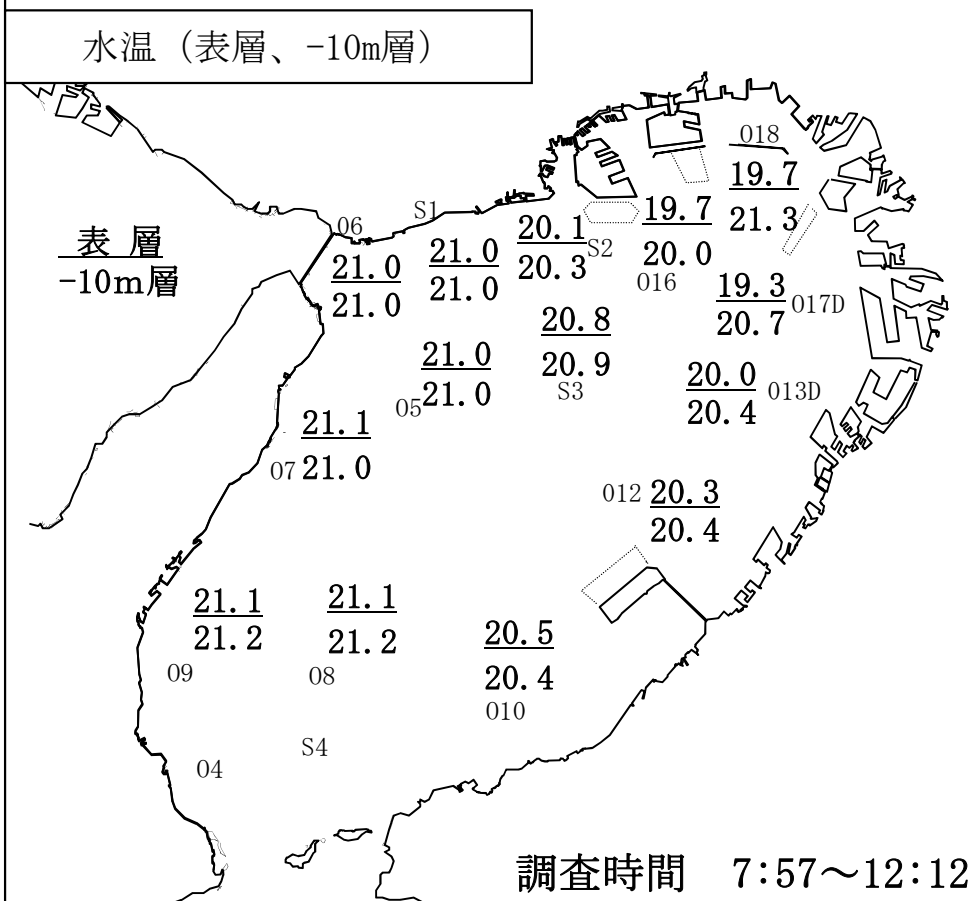
(水温) 表層は湾内19~21℃台で、平均20.7℃。平年比約0.4℃低い。-10m層は平均20.8℃(平年比-0.6℃)。

(塩分) 表層平均31.79psu(平年 31.37)。-10m層平均31.88psu(平年 32.07)。

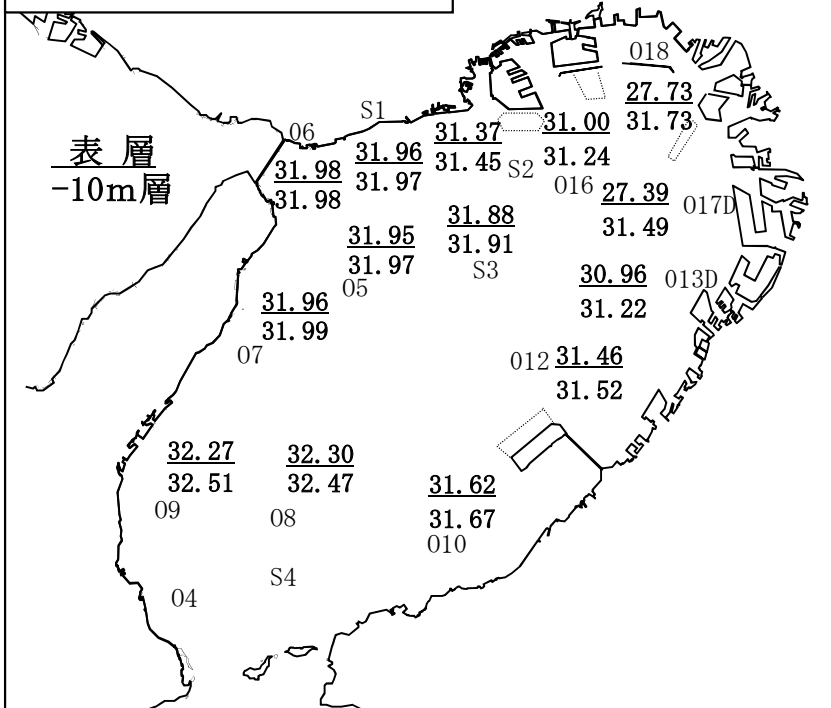
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均 $6.0 \mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均 $0.61 \mu\text{g-at/L}$ 。窒素は平年($6.8 \mu\text{g-at/L}$)よりやや低くリンは平年($0.56 \mu\text{g-at/L}$)よりやや高い。-10m層(平均)は、窒素 $6.0 \mu\text{g-at/L}$ 、リン $0.62 \mu\text{g-at/L}$ で表層とほぼ同値。スケルトネマを主体としてニッチアやレプトシリンドラス等数種の小型珪藻の大量発生による赤潮が湾奥(表層の塩分が30psu以下)において確認されたが、それ以外の海域では見られない。コシノディスカスは全域で見られるが、全般に海水1Lあたり100細胞までと大きな発生は認められない。

上段 (今回値)	2019年11月13日調査
中段 (昨年値)	平成30年11月6日調査
下段 (平年値)	11月上旬

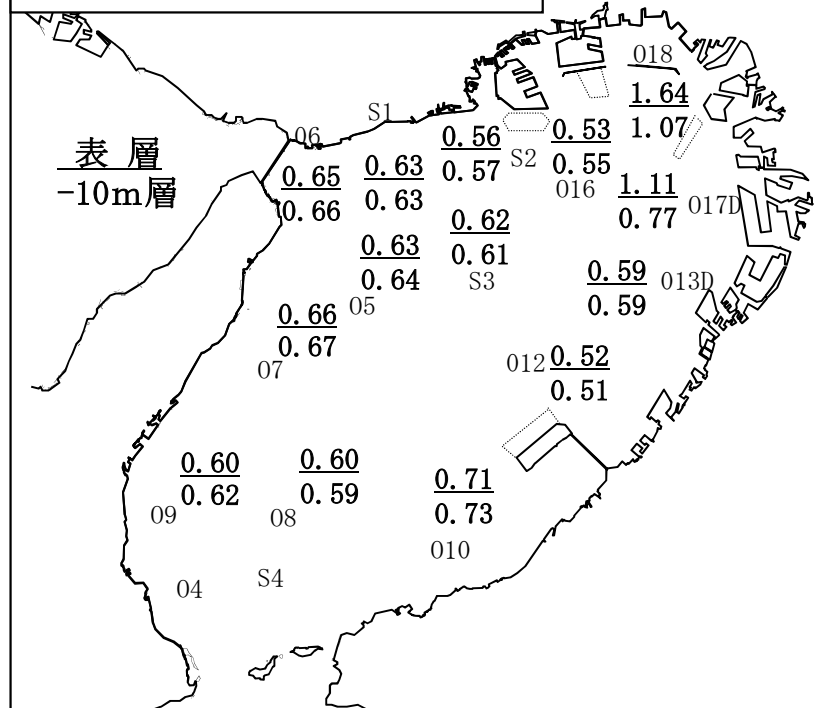
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 ($\mu\text{g-at/L}$)	磷酸 ($\mu\text{g-at/L}$)
04	21.7	32.58	4.9	0.46
	21.0	31.95	5.7	0.63
05	21.3	31.92	7.8	0.58
	21.6	31.86	6.3	0.57
06	21.0	31.98	5.9	0.65
	21.1	31.92	7.2	0.57
07	21.1	31.96	6.0	0.66
	21.3	31.90	6.8	0.60
08	21.5	31.92	6.2	0.83
	21.1	32.30	5.3	0.60
09	21.2	31.89	6.6	0.58
	21.5	32.13	5.6	0.53
010	21.1	32.27	5.2	0.60
	20.9	31.83	6.4	0.53
012	21.5	32.11	5.5	0.52
	20.5	31.62	6.8	0.71
013D	20.8	31.72	7.1	0.59
	20.8	31.60	5.7	0.51
016	20.3	31.46	4.4	0.52
	20.7	31.12	6.8	0.43
017D	20.7	31.25	5.6	0.47
	20.0	30.96	7.8	0.59
018	20.5	30.79	10.8	0.59
	20.6	30.97	6.2	0.40
S1	19.7	31.00	7.1	0.53
	20.1	30.90	8.6	0.50
S2	20.0	29.20	12.4	0.63
	19.3	27.39	32.5	1.11
S3	20.8	29.54	20.0	0.75
	20.4	28.74	22.3	0.88
S4	19.7	27.73	29.1	1.64
	20.3	29.20	24.2	1.44
04	19.9	26.97	25.8	1.07
	21.0	31.96	5.9	0.63
05	21.1	31.79	7.1	0.63
	20.6	30.41	7.8	0.55
06	20.1	31.37	6.9	0.56
	20.0	30.89	9.5	0.57
07	20.0	29.49	9.9	0.57
	20.8	31.88	6.3	0.62
08	21.1	31.94	7.1	0.61
	21.2	31.47	6.3	0.57
09				
	21.7	32.59	4.7	0.48



塩分 (表層、-10m層)



リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)

